

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年8月23日(木) 午後6時から7時20分まで 【2回目】平成30年9月1日(土) 午後3時から5時00分まで
場 所	泉丘中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】8人 【2回目】27人 計35人 (2) 事務局 【1回目】教育長 【2回目】教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後)大沼小351人(12) 水木小283人(12) 大みか小191人(6) 泉丘中375人(12) (20年後)大沼小265人(12) 水木小213人(8) 大みか小144人(6) 泉丘中283人(9) (4) 意見交換
<p>【お詫び】</p> <p>1回目(8月23日)の意見交換の様子は、録音機器の誤操作のため録音できませんでした。</p> <p>出席した職員のメモから記録を作成しておりますので、発言された方の意図を正しく伝えられていないかもしれません。大変申し訳ありません。</p> <p>また、それぞれのご意見やご質問に対する教育長や事務局の応答は、泉丘中学校の2回目(9月1日)や他会場での応答をご参考いただきますようお願い申し上げます。</p>	
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問)</p> <p>将来予測の最悪のパターンだと思うが、こうならないための人口増加のための対策と展望を教えてほしい。</p> <p>(意見)</p> <p>水戸から転入したばかりで日立のことがよく分からない中で、学校が無くなるのかとびっくりした。市の南の方は子どもが多いのかと思っていた。</p> <p>(意見)</p> <p>クラス替えがあったほうがよい。顔触れが同じだと人間関係が固定してしまう。いろいろな人と交流が持てるように2～3学級の学校がよい。</p> <p>(意見)</p> <p>半年前に大みかに転居した。子どもが少なくてびっくりし、不安に感じた。統合によって通学が遠くなるのは心配。小さいなりの教育ができたらいい。</p>	

(意見)

特別支援学校の教員をしているせいもあり、統合を考えたらスクールバスが浮かんだ。この地区はBRTが利用できる。ただ、スクールバスだと放課後に遊ぶことができない。年間を通して高齢者と交流できたらいいと思う。移民(外国人)も増えるかもしれない。特別支援学校に通いながらも地元の学校にも在籍できたらいい。

(意見)

現在、学年1学級でクラス替えがないせいか、頻繁に席替えをしてくれている。市内にもっと働く場があれば、家を買える。道路事情もよくないので、市外に出なければならぬかもしれない。日立出身なので、できれば出たくない。

(意見)

早く再編してほしい。立哨が頻繁に回ってくるし、もめる。通学はスクールバスがいいと思っている。

(意見)

バリケードを立てるときに、場所によっては車の運転者ともめる。「どうしてここが通れないのか」と。父親に立ってほしいと思う。

(意見)

市内全校の児童生徒数を資料で示してほしい。前回の懇談会では資料の中にあっと思った。エアコンをつけてほしいと思うが、統合したら無駄になってしまうと思うと難しい。学区外から学校に通っていると集団登校に入れてもらうとき、班全員の了解がないと入れないと聞いた。大沼小の集団登校が大変で違う学校に行く人もいるのではないか。

(事務局)

(市内の児童生徒数の一覧を会場に配布)

(質問)

今回の懇談会は、今後のスケジュールなど具体的な話はないのか。

(意見)

人口増加のためには仕事だろうと思う。外からどれだけお金を取ってこられるか。日立は住みやすいところだと思う。住んでいる団地も高齢者の世帯が多い。子育て世帯が増えればいいと思っている。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

2020年からプログラミングの授業が始まると聞いた。

(事務局)

学習指導要領が10年単位で変わっている。小学校の教科として英語や道徳、プログラミングなどが加わった。子どもたちのいろいろな力を育てるのは良いことだと思う。教育

委員会としては、指導する先生をバックアップしていく必要がある。

（意見）

先生たちの負担が増えると思う。先生の負担を軽減するのは保護者。防犯パトロールなどの活動を補うのは保護者である。

（事務局）

下校については、できるだけ1人になる時間を少なくし、危険な所を通らないようにするなど通学路を工夫している。栃木県での事件が契機になって、放課後の補習などをやめて一斉下校を増やしている。地域の方にも協力を仰いで地域で子どもを守ろうと取り組んでいる。

（教育長）

プログラミング教育の元々の目的は、10年後、20年後の将来を予測できない世の中を、子どもたちが生き抜いていく力をつけるために、今できることをやっということ。この準備はすでに始まっていて、大みか小がモデル校になって取り組んでいる。プログラミングの授業は、子どもたちがプログラマーのように何かを作ったりするものではなく、物事の考え方を身に付けさせるためのもので、日常生活の中からどのように組み立てて考えていくのかということ学ぶものである。先生方も、伝え方の研修などを行っている。

（質問）

大沼小、水木小、大みか小の今年の1年生の学級数と来年以降の入学者数を教えてほしい。

（事務局）

今年の1年生は、大みか小は35人1学級、水木小は66人2学級、大沼小は79人3学級。

学級の仕組みについて説明すると、茨城県では、小学1、2年生が35人で1学級としていて36人になると2学級になる。小学3年生から中学3年生まで40人で1学級という基準になっている。

来年度入学予定の人数は、今年の5月1日現在で、大みか小24人、水木小61人、大沼小91人となっている。

国は、小学1年生だけが35人。入学したての子どもにとっては、刺激が多く落ち着かなくなるので少ない人数としている。茨城県では、小学2年生まで35人としている。40人になると、細かく目を配ることが難しくなることから、36人以上のクラスには非常勤講師をつけている。また、担任だけでなく学校全体で子どもたちを見ている。茨城県では、さらに、36人以上のクラスが学年に3学級以上あるときは、4学級にして1学級の人数を少なくするようにしている。

経験からは、25～30人くらいが適当だと感じる。極端に少ないと刺激が少なく、いろいろな友達と触れ合えない。サッカーなどもできない。

国・県のルールなので簡単には変えられないが、市としても機会あるごとに訴えているので、保護者の皆さんからも機会があれば訴えてほしい。

(質問)

5年以内に台原中、河原子中が無くなるといううわさがある。これからどうなるのか。

(事務局)

実際には、全く決まっていないし、話したこともない。現在検討している再編計画の中で具体的に進めていく。学校の組み合わせは、現時点で考えていない。検討委員会の中で、協議・検討し、素案がまとまったら、皆さんからご意見を伺うことにしている。

(教育長)

校舎の老朽化や耐震化の工事を始めた頃から、そのよううわさが立つようになってきたと思う。台原中、滑川中は、市内では新しい学校で、新しい建築基準で建てられているので耐震性もあり改修などをしていない。

台原中は統合されるといううわさのために、泉丘中に人が移ってしまい、ますます少なくなってしまう。

再編は、子どもたちにとって良い環境を整えていくことを、皆さんと考えていくことが大切。部活があるからとか人数が多いからとか、選んだ理由はいろいろあると思うが、このまま泉丘中だけが多くなってってしまうのは、バランスとしてどうかということも再編の中で考えていきたい。

(質問)

坂本中と久慈中は統合されるのか。

(教育長)

数からだけだと、そのような形が予測されるが、通学距離、その他のいろいろな課題がある。それらを皆さんにお諮りしながらやっていきたい。再編は、行政が責任を持って取り組んでいくことであるが、専門の方々の意見や皆さんのご意見を伺いながら取り組んでいきたい。

いずれは計画をお示しすることになるが、現在ではうわさでしかない。でも、うわさは怖い。うわさで人の流れが作られてしまう。

(事務局)

検討の中心が検討委員会なので、構成の内訳をご紹介したい。

小中学校や幼稚園の保護者の代表の方、学校の先生、学識経験者、特に委員長の茨城中の先生は10年来、再編の研究をしておられる精通された方。他に、子育てに関する活動団体の代表、産業界からも参加していただいている。

検討のための情報を、行政から提供する形で進めている。具体的には、一昨年のアンケートの集約や今回のような懇談会での意見、子どもたちの推計、他県の状況などを提供している。このような中からできた案を素案として皆さんにお示して、意見をいただき、検討委員会にフィードバックしていく流れで進めている。

学校は子どもの学びの場であるだけでなく、町の中でもいろいろな役割を担っている。避難所や投票所、小学校区がコミュニティの活動エリアと一致しているので地域活動の単位になっている。教育だけでなく、市の中で関係課所とも検討する組織を作って情報交換をして、総合的に検討している。何よりも、お子さんにとって、学ぶ環境として、どのような環境が一番良いかという視点で検討している。

(意見)

通学時の安全確保や先生への配慮など課題はあるが、統合しないと学校の維持ができな

いと思う。統合が進むと、歩いて通えない所も出てくると思う。子育て世代は日立市に居を構えるかどうかを決める世代であり、日立市の維持のためには、そこをキープしないとどんどん減っていってしまう。安心して働ける道筋が分からないと人は流れていく。安心して子どもを送り出し、迎えるまでの道筋を示してほしい。統合の情報は早めに教えてほしい。教育の質となると遠くなることになるので、保護者と一緒にいられない間の安全の確保を早めに練ってほしい。

（ 教育長 ）

学校再編と並行して学校運営協議会、地域とともにある学校という取組をしている。子どもたちを地域全体で見守っていこうとしている。

（ 質問 ）

再編の話は、子どもが幼稚園の頃からあり、現在は小学2年生である。

ゴールはどこ（いつ）か。何年にどのくらいのことがやりたいのかが分からない。それが分からないからうわさが出ると思う。

（ 事務局 ）

できているのは基本方針で、具体的な個々の学校を再編するベースとなるもの。子どもたちの教育環境を整えるための教育委員会の考え。それに基づいて検討している。来年度中には計画を作りたい。その再編計画の中で具体的なものをお示ししたい。具体的なものは何かというと、日立市の全体像を示した上で、その中でもスタートしてから10年間で、どのような順番でどのようにやっていくのかをお示ししたいと考えている。

見通しが持てない不安は、懇談会の中でも質問やご意見の多い事柄の一つなので、ぼやけたものではなく具体的にお示ししたいと考えている。10年先、20年先のことでもあるので、まとまらない場合もあるかもしれない。その場合には、エリアごとの校数を示す形（「4校を2校にする」など）になるかもしれない。決まった後には速やかに進める。

（ 質問 ）

計画を来年あたりに決めるとなると、人口減少はどのくらいを見据えているのか。学区によって減り具合も違うのではないかと。再編しても、数年後には基準を満たさなくなることも考えられる。

（ 事務局 ）

難しいことだと思う。10年先ではあっという間に来てしまうが、50年先を推計するのは難しい。いまのところは20年後の推計を参考に考えていきたい。

計画ができた後でも人口増減などの状況は変わる。取組の順番が後ろの学校については、修正もあり得る。柔軟に対応することが必要だと思っている。

（ 質問 ）

新しく団地ができる所など、見えている所はあるのか。

（ 事務局 ）

見えているかどうかで言えば見えていない。日立市は山側に団地を作って、子どもたちが増えてきたので学校を作ってきたが、そのようなことも参考になると思う。団地ができて学校の子どもたちが一時的に増えても15年くらいで半分になる。このような実績があるので、ある程度のスパンで子どもの増減を予測できる部分もある。これから10年後、20年後に大規模開発があるかどうかは読めないで、情報が入り次第、柔軟に修正して

いきたい。

(質問)

学校の設備について尋ねたい。新しい学校にはエアコンが付いているが、扇風機で対応している所もある。県立高校は全校にエアコンを整備することになった。日立市はこのことについて、どのように考えているか。

(教育長)

これまで日立市では、空調設備のある学校でも、昨年までは常時使用する状況ではなかった。平成25、26年ごろに扇風機や網戸を付ける程度だった。今年の夏は大変な暑さだった。今後も、夏は暑くなっていくだろう。こうした環境の中で、来年の夏には、普通教室に空調設備が設置できるように努力している。予算もさることながら、全国一斉に取り組まれることになるので、設備が足りるのか、また、国や県の支援の状況などの情報を集めて間に合わせたいと考えている。

(質問)

日立市の学校で不登校児はいるのか。また、不登校児に対するケアは、どのようにしているのか。

(事務局)

本日は、具体的な数字を持ち合わせていないが、不登校のお子さんはいる。一般的には、中学校で増えるといわれている。小学校から中学校になると、友達関係や学習など、いろいろな関係性ががらりと変わる。思春期といわれる心の成長期でもあり悩むことも多い。小6から中1で増えるといわれ「中1ギャップ」と呼ばれる。その解消のため、小中連携教育に取り組んでいる。

不登校は小学校でもある。学校では、担任一人だけでは抱え込まないように伝えている。日中の職員室に先生方が残っていることはほとんどないと思う。担任外の先生が、必要な学級に支援に入り、学校全体で見守る意識が強くなっている。不登校の対応も担任だけではなく、学年主任や生徒指導主事、子どもが話しやすい先生などでチームを組んで対応している。子どもにとっても合う先生、合わない先生がいる。いろいろな先生の間で関わることで、いろいろな子どもの声が聞ける環境を作っている。

(教育長)

日立市では、「いいとこ発見夢づくり」を合言葉として、子どもたちの自己肯定感を高める取組をしている。未来パスポートとして、良いところ、得意なこと、好きなことを自分自身で発見し、書き記す。小1から中3まで続けていく取組をしている。子どもは今日が大事なので、大人が協力して見守り、また、将来的な長期的な視点で、今はできなくても将来に向かって取り組んでいける気持ちを持ち続けられるような取組をしている。

(意見)

ひたちなか市から転入した。

学校からの不審者情報が遅く、また、学校に寄せられた情報が不確かだから流さないなどあてにならないので、保護者間の情報のやり取りで自衛している。学校からのメールやひばりメール(茨城県警)を見て、迎えに行こうとしても働いている保護者は行けない。地域の目が必要だと感じるが、自分の住んでいるエリアは高齢者世帯が多く自治会(町内会)が無くなった。かたや、茨キリ大方面では、下校時間に高齢者が見守りをして道路を渡してくれている。地域の中でも場所によって差がある。各家庭では心配だけれども仕事

がある。高齢者を集めて自治会を機能させることは無理な話だと思う。大みか小では、いずれは水木小に吸収されるとのうわさがあり、水木小にはエアコンがあるから楽しみにしている面もあるが、今のところは予定がないことが分かった。

再編の際には、地域に住んでいる人たちの年齢や、自治会が機能しているかどうかまで考慮して通学路の安全性を考えてほしい。無理なら、スクールバスがあれば、通路はともあれ家までは帰ってくるので、共働きでも安心できる。

（事務局）

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）などで、地域との協力体制を再構築していくことを積極的に考えなくてはならない。統合になると新しいエリアが出来上がるので、協力し合って話し合っていく必要がある。

（教育長）

地域からは、特に小学校が無くなると困るという意見が出てくる。それに対して、そこに子どもを通わせている親御さんが「統合して安全なら構わない」と思っておられるならば、それは実情として受け止めたい。

（意見）

個人的には、そう思う。個人面談で大みか小に行った際、3階に上がったら地獄のような暑さだった。33度もあり、こんなに暑い中で授業をしているのかと思った。先生は「子どもたちが入るともっと暑い」とおっしゃっていた。「よくぞ、ご無事で」という気持ち。

不審者も見かけたことがあり不安もあった。エアコンの件もあったので、ぜひ、水木小に統合できればと思った。

（教育長）

そのあたりは、お一人お一人で違うと思う。自分の気持ちを、こうしてやり取りできることはとても大事だと思う。

（意見）

（統合を望むのは）少数派だとは思う。

（意見）

河原子小に友達がいる。河原子小は子どもが少ない。こんなに少ないなら、どこかと統合して、友達がいっぱいいる方がうれしいという声もよく聞く。家から近いことも大事だし、高齢者の拠点となることも大事だけれど、自分の子どもが通っていると、友達が多い方がいいと思っている人もいる。

大沼小は、泉丘中と河原子中に分かれるが、学区的に河原子中に行く子が少ない。河原子中は部活が少ないので泉丘中を選ぶ意見もよく聞くし、親は河原子中に行かせたくても子どもに押し切られたということも聞く。6年生になれば自分の意思もある。子どもの中にも、少ない所よりは多い所に行きたいと思う子もいるだろうし、少ないほうが良いと言っている子もいる。一概にどちらとは言えないところが難しいと思う。

（質問）

教員の配置について伺いたい。小中学校の教員の数は、市で決められるのか。

（事務局）

教員の配置は、県で決めている。標準的な12学級の小学校では15人と決まっている。

このほかに加配があり、学校ごとの課題に対応している。

(意見)

日立市ではなく小中学校でもないが、自分も教員。教員として余裕を持った教育をしていきたい。職員室に残っている教員はいないと聞いて、休みなく子どもと接していて、教材を準備する時間などはあるのかと心配になった。

教員として、ゆとりを持って教育ができる市でありたいと思うし、保護者としては、余裕をもって教育に当たり、教員個人の生活もできる職場体制を持った教育機関に子どもを預けたいと思った。教育委員会にはサポートをお願いしたい。

(事務局)

市教委としても、教員の働き方改革として、仕事の見直しをし、もっと子どもたちと向き合える時間が作れるように取り組み始めたところである。

(質問)

自身が化学物質過敏症で苦しい。学校や教育委員会には相談できる専門の人はいるか。発達障害児の中にも化学物質に反応してしまう子が多いともいわれている。自分の子どもには症状は出ていないが、将来、出てしまうのではないかと不安ある。給食のエプロンを持ち帰っても、(洗剤や柔軟剤に反応してしまうので) 洗ってあげられない。いろいろなことが心配になる。

(教育長)

義務付けられてはいないので、専門職は置いていない。建材については配慮している。アレルギーへの対応なども講習を行ったりしている。化学物質が二重三重になると、私たちが想像できないこともあると思うので、学校や教育委員会に相談してほしい。医療的ケアについても、看護師の配置など、保護者の希望を伺いながら対応している。

教室の環境なども学校薬剤師の指導の下、検査や情報交換をして管理している。

(事務局)

時間のかかる対応もあると思うので、就学の直前ではなく数年前から相談してほしい。

(意見)

不審者対策で要望したい。新しい学校には、教室と職員室をつなぐ内線やインターフォンがあると聞いた。大みか小にはない。大みか小は、交流センターと同じ敷地にあることもあり、外部からいつでも入れる。すぐに職員室につながるようなものを、教室に設置してほしい。

(教育長)

対応していきたい。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。